



目 次

山口大学図書館における常設展示活動の歩み・・・ 1	新「山大リンク」で文献検索がさらに便利に！・・ 7
活字中毒者は滅亡していくのか？…………… 4	平成 20 年度図書館業務統計…………… 8
学生協働事業（学生からの寄稿）	平成 21 年度図書館利用ガイダンス…………… 10
学生協働の意義について…………… 5	本学関係教員著作寄贈図書・平成 21 年度図書館関係委員会名簿・・ 11
この一年間学生協働に参加して…………… 6	会議・研修・人事・編集後記…………… 12

山口大学図書館における常設展示活動の歩み

工学情報係長(展示WG) 守永 盛志

1. はじめに

平成 21 年 6 月、山口大学が創立 60 周年を迎えた時、図書館においても、1 つの活動が 6 周年を迎えた。日頃、図書館を利用されている方は、一度は目にしたことがあるのではないだろうか？常に図書館の 1 区画に存在し、訪れた利用者に対して山口県の文化、歴史の情報を発信し続けてきた活動こそ、山口大学図書館の“常設展示”である。

今回は、これまでの常設展示を簡単に紹介しながら、具体的な展示活動について述べていきたい。

2. 常設展示活動の概要、目的

山口大学図書館での展示活動は昔から定期的に行われていたが、現在のように常設な形で行われるようになったのは、平成 15 年の「長州五傑」をテーマとした企画展示からである。その

後は一度も途切れずに内容を更新し続け、現在公開している「山口大学の軌跡」にて記念すべき 10 回目となった。

以下に、これまで行った常設展の内容を紹介する。

1. 長州五傑のたどった道	H15. 6
2. 長州歴史散歩	H15. 10
3. 日本の近代化に貢献した人々	H16. 1
4. 日露戦争と長州人	H16. 7
5. 大村益次郎	H17. 1
6. 山口市街の探訪	H17. 7
7. 山尾庸三 ～生きた器械になりたい～	H18. 7
8. 平川 ～史跡の散歩道～	H19. 7
9. 長州藩の財政改革	H20. 7
10. 創立60周年記念 山口大学の軌跡	H21. 6

一覧を見るとお分かりになると思うが、常設展示の多くは、山口県という地域、あるいは山口大学に関連するテーマに限定して行われてきた。それらのテーマを選択するにあたっては、

当時増加していた学外の利用者（多くは山口市近郊の方々）に対する「地域へ開かれた大学」をアピールする他に、県外からの入学生に対して自分たちが暮らす山口県に興味を持ってもらう機会になればという意図があった。

また、常設展示活動の目的としては、図書館広報の一環としての役割を果たすという点も挙げられる。学園祭などでの一時的な展示とは違い、常に図書館内に展示スペースを設けていることで、「図書館に常時設置された展示コーナー」という固定情報を利用者に対して発信することができた。それに加え、図書館が所蔵する貴重な資料やコレクションを、展示を通して紹介することで、その資料の存在を認知してもらう機会にもなった。これは、図書館資料を死蔵させない生きた資料にすることにも繋がり、図書館の活動の一つである「資料を保存し、公開する」ということを強くアピールできるのである。

このように常設展示は、図書館及び大学のPRや地域貢献という大切な役割を少なからず担ってきていたと思われる。



「山口市街の探訪」展示風景 (H17)

3. 常設展示活動の業務

現在の常設展示活動は、展示ワーキング・グループ(WG)にて運営されており、参加を希望した情報環境部の職員(両分館も含めた)、総勢約18名(2009年7月時点)で構成されている。

しかし、常設展示を始めた当初は参加人数も少なく、展示のノウハウを持たない者が殆どで、全くの手探り状態からのスタートであった。そ

の主な活動内容は、展示テーマを選択することから始まり、そのテーマに沿った資料の収集、展示パネルの作成、解説文・ポスター・HP作成の他、会場の設営や展示の広報など、広きにわたる。

以下に展示工程を簡単に紹介する。

1. 企画の設定	
①テーマの選択	②展示の企画
③作業分担の決定	
2. 関連情報、関連資料の収集	
3. 展示パネルの準備	
①パネル概要の決定	②レイアウトの決定
③パネルの作成	④台紙色の決定
⑤パネル台紙貼り	
4. 展示資料の準備	
①展示資料の選定	②解説文の作成
5. 展示の広報	
①HPの作成	②ポスター作成
③パンフレット作成	④学内外の広報準備
6. 会場設営	
①会場レイアウトの決定	
②パネル、展示資料の設置	
③解説文、サブタイトルの設置	
④パンフレットの設置	

展示の更新は年2回を目標としており、更新時期の半年前から展示WGメンバーにて企画の打ち合わせを行い、その内容によって作業の分担を検討する。テーマによっては深い専門知識が必要になることもあり、メンバーで解説できない資料等が出てきた場合には、そのテーマに関する専門分野の教員や学外の研究者の協力を得ることもあった。

また、展示を行うには、そのテーマに関する知識を得る必要があるため、メンバーによる取材を企画している。

- ・山尾庸三、大村益次郎史跡探索
- ・三隅町、萩市史跡探索 など

テーマに関連した各地の史跡を探索することで知識を深め、メンバーの一体感を生むことにも繋がった。

山口大学図書館の常設展示はパネルを中心と

した構成になっており、作業の多くはパネルの作成が占めている。そのため、参加メンバーは、パネル作成のために各種パソコンソフトを使いこなす必要があり、デザインや色彩表現というスキルも要求される。

また、展示資料の選定作業においても、資料の調査や解説等を行うことで、普段では得難い経験をすることにもなっている。このように職員をスキルアップさせるという効果も、常設展示活動が持つ側面のひとつである。

4. 過去の活動

常設展示を始めた当時（平成 15 年）は、山口県の各地で、長州五傑イギリス留学 140 周年イベントが行われていた。図書館でも新たな広報を模索していた時期でもあり、時流に乗って長州五傑を取り上げ、展示会「長州五傑のたどった道」を行ったことが常設展示の始まりであった。

当時の常設展示活動は、現在と違って図書館業務の一環として位置づけられておらず、メンバーは本来の業務の合間をぬいながら作成を続けた。ただ、困難は飛躍のチャンスともいい、その当時に試行錯誤し考えられた常設展示は学内外からも好評で、展示終了後も「長州五傑」の展示パネル（その後数回リニューアルしている）は、他図書館でのイベントにて借用希望が有る程になっている。

その後、常設展示も回数を重ね、通常の展示以外にも、ミニ展示の開催や他図書館との共催展示の開催、学園祭や七夕祭等の大学行事での展示会など、活動の場をひろげてきた。

ミニ展示	
「山口県出身の首相」	H18. 11
「山口大学変遷図」	H20. 1
「藤岡市助を知っていますか？」	H20. 10
「山口大学ブランド：日本酒」	H20. 12
「山口大学初代学長 松山基範」	H21. 1
その他	
萩市立須佐図書館企画展協力	H18. 7
萩市立萩図書館共催企画展示	
「資料で見る萩の明治維新」	H20. 10



萩市立萩図書館共催企画展示 (H20)

また、地域と連携した展示も実施しており、過去には「菜香亭」等でのパネル展示も行った。

そして、今回 10 回目の常設展示となった「山口大学の軌跡」においては、有る意味、今までの展示活動の集大成ともいえるパンフレット「創立 60 周年記念：山口大学の軌跡」を作成した。その名の通り、今年で 60 周年を迎える山口大学を、創立から現在まで年代別に解説しており、歴代学長の紹介や大学年表などを含めたわかりやすいパンフレットになっていて好評を博している。

5. おわりに

これまで記したとおり、試行錯誤を繰り返しながら本学の常設展示は活動してきた。その途上では展示活動の存続が危ぶまれるようなこともあったが、活動を継続し、立ち止まることなく歩み続けてきたからこそ、今日の成果があると考えられる。

自分たちが暮らす土地や地域の歴史を知ることが地域連携へと結びつくものであるなら、この常設展示の活動も学内に留まらず、広く地域の人々に活用して頂けるものになっているのではないだろうか。

また、展示活動のノウハウを蓄積し、大学内に埋もれた資料に光をあてることができる、そのような展示を今後も目指していきたいと思っている。

活字中毒者は滅亡していくのか？

山口大学図書館副館長(工学部図書館担当) 山本 修一



ウィキペディアでは「活字中毒とは、活字(文章)への「依存症」で、活字に常に接していないと気分が悪くなるなどの症状が出る。このような症状を呈する人間は、「活字中毒者」と呼ばれる。内容ではなく本それ自体に愛着する「ビブリオマニア」(書痴、愛書狂)とは区別される。」と書かれている。

私も学生時代と、その後 10 年程度はある種の活字中毒者であったと思う。布団のなかで本を読みながら、気がつくとき寝ているという就眠儀式を毎日繰り返していた(逆に言えば本がなければ寝ることができないという異常な体質であったともいえる)。

当然のことながら、図書館の書庫は非常に好きな場所で、探しにいった論文を見つけたついでに、いろいろ見てしまい気がつくと思わぬ時間がたっていたものだった。書庫には思わぬ本があるものである(もちろん古い本である)。

最近、「インクハート」というドイツ人女性作家コルネーリア・フンケの「魔法の声」が原作の映画を見た(機内で)。本を朗読すると、本の中のものが現実に出てくるという不思議な声を持つ家族の物語である。映画の中には、本を宝物として扱うコレクターも出てくる。本はそのコンテンツのみならず、本としての(芸術的)価値があるので、図書館はその意味では宝物保存所でもある。

さて、かつての活字中毒者は、今はどうしているか。ご多分にもれず、図書館に直接行くことは激減し、もっぱら電子図書館のお世話になっている。これはこれで、ずいぶんありがたく科学・技術論文が瞬時に自分の机の画面にあらわれる。コピーしてファイリングする必要もなく、整理も容易である。私のもうひとつの役職

であるメディア基盤センター副センター長としては、この環境は満足すべきものかもしれない。加えて、毎日疲労困憊で本による就眠儀式も不要となっている。ということで活字中毒から脱却したようにも思える。

最近コンテンツをデジタル化する大型プロジェクトが世界中で進行しており、著作権との関係で摩擦も生じている。例えば書籍デジタル化事業について、米グーグル社が米国の作家らと和解したことが、米国外の作家・出版社に波紋を投げかけている。

大学においてもリポジトリ(repository)において教員の論文・著作を公開する動きが活発化している。リポジトリはオープンアクセスとともに、散逸してしまう可能性のある著作・論文の保存には有効であろう。

デジタル化時代の図書館がどうなっていくのかは興味深い(活字中毒者がどのように活用していくのかはわからないが)。私の在任期間中に驚くような変化はないかもしれないが、ユーザーの方々の意見をお聞きして利用しやすい図書館環境にしていきたいと考えている。



学生協働事業（学生からの寄稿 1）

学生協働の意義について

人文学部 4 年 藤田 寿規

私は約 2 年間、大学図書館で学生協働の活動に参加してきました。カウンター業務や配架整理など、図書館内の様々な仕事に関わらせていただき、その過程でたくさんのことを学んできました。その中で、特に印象に残っているのは、「仕事は作業とは全く違うものである」ということを実感した経験です。

あるとき、書庫の中の本を移動させる仕事を手伝うことがありました。私に与えられた指示は「あそこの棚からここの棚まで本を移動させるから、それを手伝って」というものでした。しかし、いざ作業が動き出すと、私は上手く動くことができませんでした。具体的にどのように動けばいいかという指示がなかったので、まずどうすればいいか、次にどうすればいいか、頭の中で整理ができなかったのです。

しかし、後でよくよく考えてみると、指示が不足していたから仕事が上手くできなかったわけではないと気付きました。アルバイトでやるような単純作業と違って、「仕事をする」とは様々な発生する問題に有機的に対応することであって、一度指示を出すことによってすべてカバーできるようなものではないのです。だから、「本を今からこうやって動かすから、こうやって、ああやってね。もし〇〇になったら、こう対処してね」などと具体的な指示を全て出しておく、ということはそもそも不可能ですし、非効率的なのです。しかし、それまでアルバイトで命じられた単純作業をこなすことしかやってこなかった私は、「仕事」に対応することができなかったのです。所詮今まで私がやってきていたのは「作業」でしかなく、「仕事」をするということに関しては、全くの素人であるということを感じ知らされた経験でした。

これはあくまで私個人の経験と解釈であって、

全ての人に普遍化して語れるような話ではないと思います。ただ、本を読んで得た知識でもなく、人から聞いた話でもなく、「私が」「体験をもって」「実感した」というこの学生協働での経験は、今の私の考え方にとても大きな影響を与えているのです。私にとって、仕事について考えるきっかけを与えてくれたのが学生協働の活動なのでした。



カウンターにて（左が筆者）

学生協働とアルバイトはどこが違うのか、その差別化に意味はあるのか、疑問に感じているという声も聞きます。確かに、このような「仕事について学ぶ体験」は、学生協働を通じてでないと絶対にできない、というのではないと思います。アルバイトによっては、作業だけさせるのではないところもあるだろうし、アルバイト以外にも様々な方法はあるのでしょう。しかし、やっぱり学生協働は特別なものだとは思いますが、では、なにが違うのか。極端な話ですが、学生協働は「失敗してもいい場」なのです。学生協働の場では、他とは違って、そこまで生産性や利益、効率が求められているわけではない。だから失敗しながら学べるし、思い切った挑戦もできる。そのような環境こそが、学生協働が「キャリア教育支援プログラム」として誇れる長所だと、私は思っています。

学生協働事業（学生からの寄稿 2）

この一年間学生協働に参加して

人文学部 4 年 田中 千尋

私は大学 2 年生の時に、とある先輩から「図書館ボランティアに興味はないか」と声を掛けられたことがきっかけで学生協働を知った。昔から本を読むのが好きだった私にとって、図書館は大好きな場所の一つであった。また、大学入学時から様々なボランティアに興味を持ち取り組んでいた。“図書館”、“ボランティア”という 2 つのキーワードに完全に魅了された上に、実は密かに声を掛けて下さった先輩のファンだった私は、話を聞いて即学生協働への参加を決めたのだった。

その当時は、人文学部の司書過程を履修していて、「司書になりたい」「図書館で働きたい」という学生たちの間で、学生協働という活動が密かに布教されていた。そのため、メンバーは今よりずっと少なかったし、活動自体も「図書館職員としての仕事を学びたい」という視線から教えを請うことが多かったように思う。



オリエンテーションにて（右端が筆者）

しかし現在では、ただ単に「ボランティア」として与えられたことをするのではなく、「働く」という側面を強調し、自ら考え積極的に行動し、最終的には個々のキャリアアップに繋がる活動へとシフトしてきている。

学生協働は、おそらくメンバーの数だけ仕事

の定義がある。自分の持てる力と時間を全力で注ぎ込み、広く深く様々な図書館の仕事に触れている人もいれば、忙しいけれど少しの時間でも何かしてみたいと参加する人もいる。ここには嘗ての学生協働における有志の部分が引き継がれているだろう。ここに、利用者や図書館資産に対して責任を持つという「働く」部分が付加された。「働く」ことを意識するようになってから、責任感や自信が身に付き、活動に対する熱意を向上させるよい原動力になったと思う。

各自が自分のやり方で無限にある道を選びながら、「よりよい図書館を創造する」という最終目的地へと絶えず歩みを進める。この自由と責任の共存が、単なるボランティアや就労体験と異なるためであろうか、近頃では学部を問わず学生協働に興味を示す人が増え、新たなメンバーで賑わっている。

また、概ね一月に一度のペースで、学生協働の打ち合わせとして、学生メンバーと職員の方々が忌憚なく意見交換を行っている。全体の集まりだけでなく、数人で活動しながら何気なく意見を交し合うことも多い。私では気付か(け)ない事を提案されて驚き感動したり、逆に私が提案したことを真剣に受け止めて意見を返してくれたりする。この交流こそが、私が学生協働の中で最も楽しく感じる瞬間である。

今後どれだけ時間を作れるかわからないが、私は私のやり方で学生協働に関わって行きたい。

最後に、学生協働で得た多くの出会いや経験は、私の大学生活の大きな宝となっている。このような機会を与えて下さった山口大学図書館の皆様と、共に活動をする中で、いつも支え励ましてくれた学生協働の素敵なメンバーたちに、心からの感謝を込めて…。

ありがとうございました。

新「山大リンク」で文献検索がさらに便利に！

文献検索結果から目的の文献そのものへと利用者を導くリンクリゾルバ機能は、2006年の導入から3年経ち、「山大リンク」として利用者の間で徐々に定着してきています。

今春、このリンクリゾルバのさらなる機能充実のため、「山大リンク」をリニューアルしました。リニューアル版「山大リンク」の新機能は、

- ・国内の機関リポジトリとの連携
- ・CiNiiやMagazinePlusなど日本語データベースへの対応強化
- ・リモートアクセスに対応

などが挙げられます。

学術機関の研究成果が無償で発信される機関リポジトリとの連携は、他大学の研究紀要や研究論文へのリンクを可能とし、オンラインでの文献入手の幅を広げます。また、学外からオンラインジャーナルやデータベースを利用するリモートアクセス（試行運用中）に対応したことで、学外からでもリゾルバ機能を利用できるようになっています。

なお、従来より文献複写依頼申し込み画面へ

はリンクされていましたが、図書館システムの更新にともない、文献検索データベースで探した文献の情報が申し込み画面に転記されるようになりました。「山大リンク」を使えばオンラインや冊子で入手できない場合でも、複写依頼がスムーズに行えます。

機能面だけではなく、アイコンデザインもリニューアルし、文献検索データベースの画面に映えるピンク色にしました。「山大リンク」は、図書館HPから提供される文献検索データベースの大半で利用可能ですので、ピンク色のアイコンを見つけたらぜひクリックしてみてください。

ところで、「山大リンク」と同時にオンラインジャーナルポータルもリニューアルしました。その他にも、百科事典や各種辞典を横断的に検索できる「JapanKnowledge」の導入や化学文献検索データベース「SciFinder」、学術雑誌の影響度を調査できる「JCR」がオンラインで利用可能になるなど、文献検索はどんどん便利になっています。いずれも図書館HPから利用できますので、どうぞご活用ください。

文献検索データベース

機関リポジトリ

オンラインジャーナル

蔵書検索

文献複写依頼

探 山大

①

②

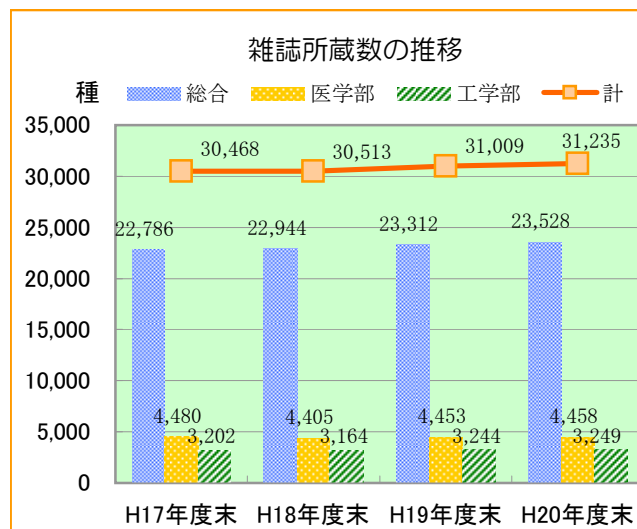
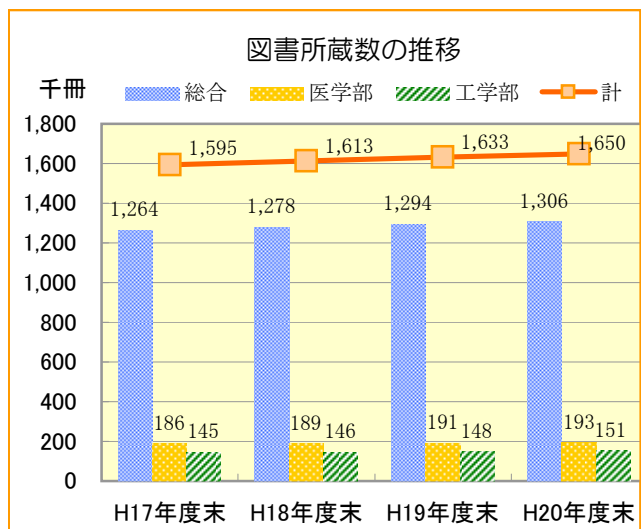
③ 本文入手！

山大リンク設定データベース

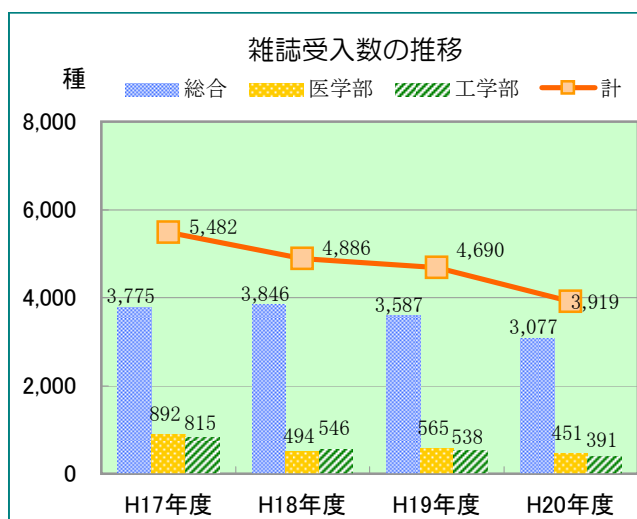
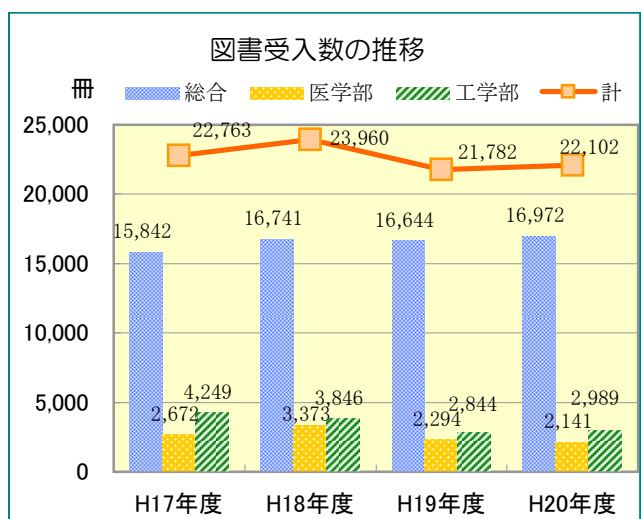
- ・ CiNii
- ・ SCOPUS
- ・ MagazinePlus
- ・ MathSciNet
- ・ 医中誌 Web
- ・ Google Scholar
- ・ JDream II
- ・ Medline
- ・ CINAHL
- ・ SciFinder

平成20年度図書館業務統計

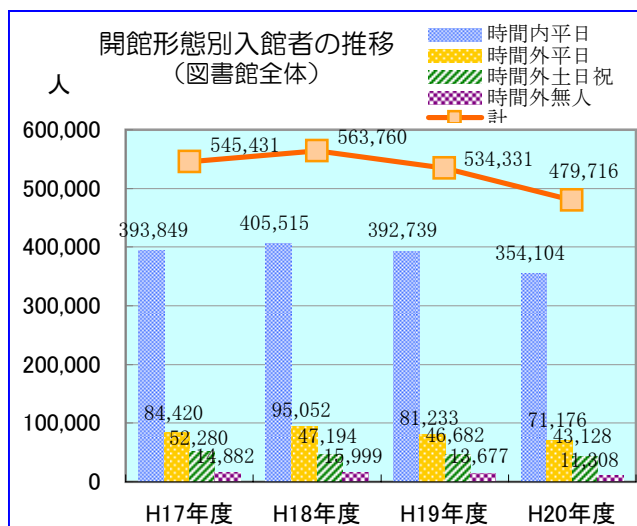
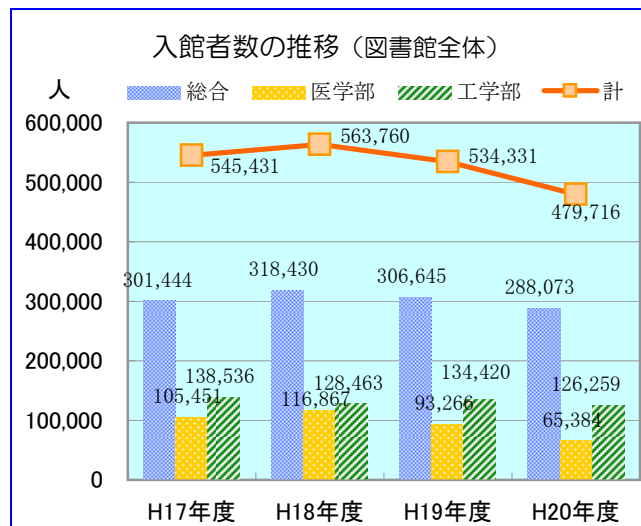
1. 蔵書数



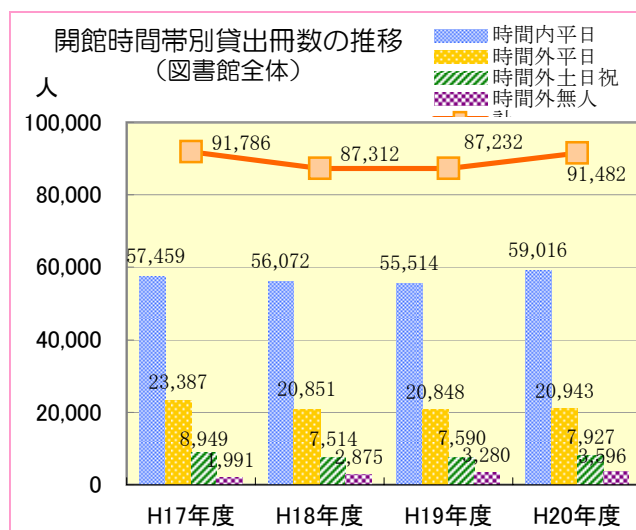
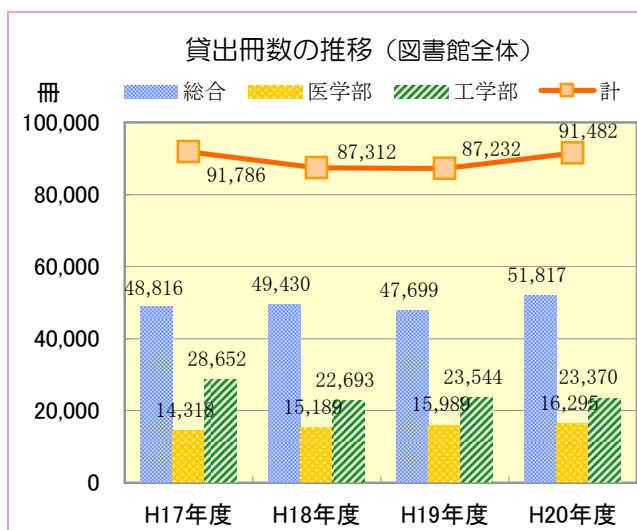
2. 受入数



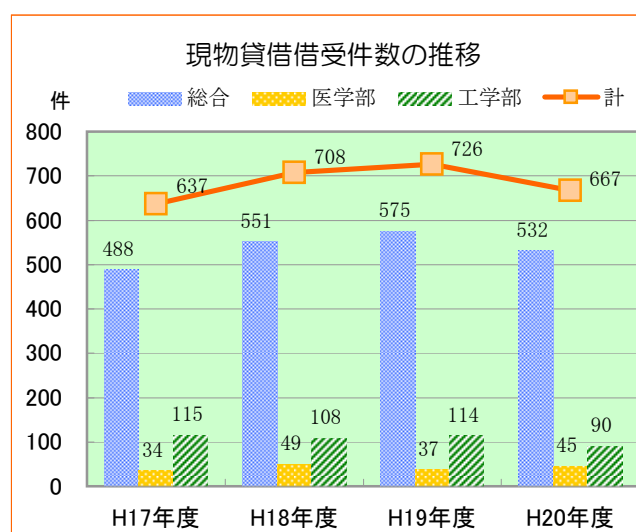
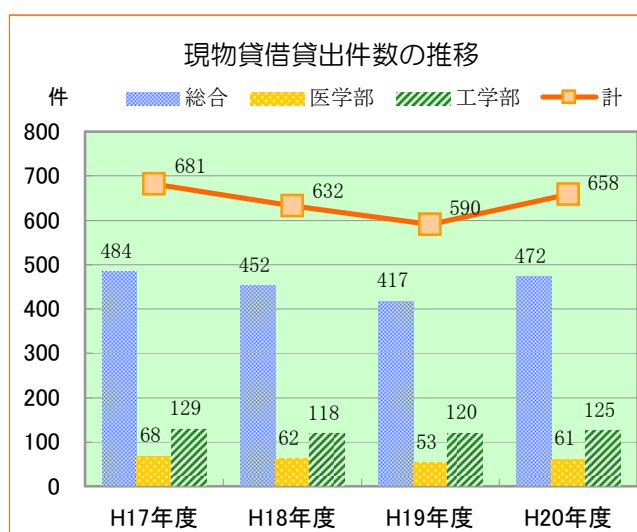
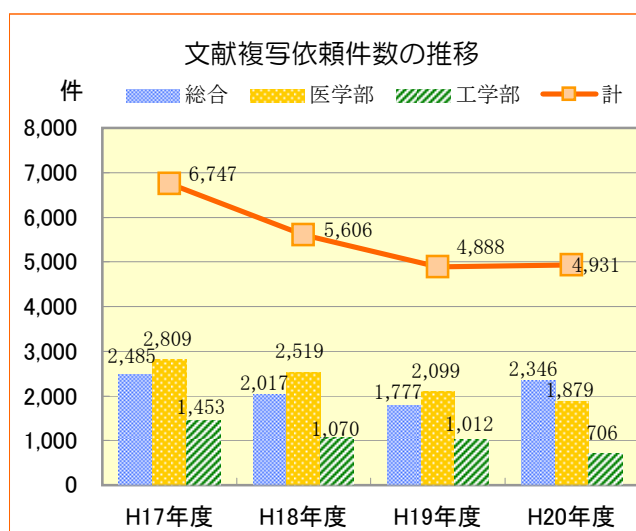
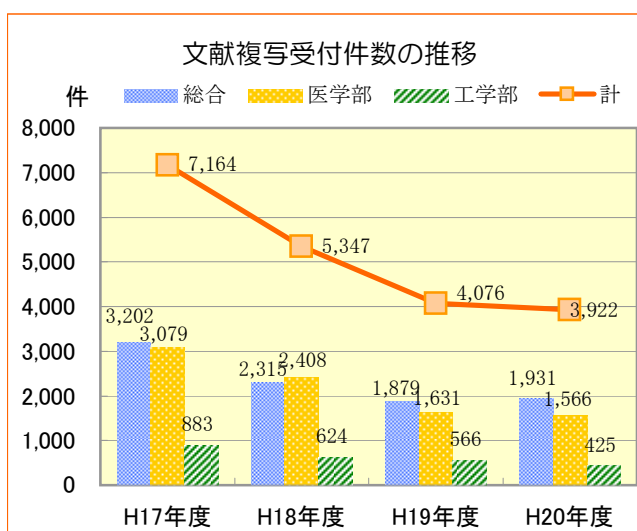
3. 入館状況



4. 貸出状況



5. 相互協力



平成 21 年度図書館利用ガイダンス（4～6 月）

図書館では、学生や研究者の皆さんの学習活動や研究活動を支援するため、一年を通してガイダンスを開催しています。自主的な学習活動の第一歩として図書館利用ガイダンスに参加してみませんか。

【総合図書館】

・クラス・ゼミ単位ガイダンス

今年は、「基礎セミナー」や「情報リテラシー演習」の授業の1コマとしてもガイダンスを開催し、参加者のほとんどは1年生です。“文献とは何か”から始まり、“蔵書検索の方法”、“文献検索の方法”と実習を挟みながら進めていきます。参加者からは「分かりやすかった。」「他の人にも参加を勧めたい。」「といった感想が多く、上級生からは「もっと早く説明を受ければ良かった。」という声もありました。

表 1 学部別参加状況

学部	回数	参加者数(うち1年生)
人文学部	8	229 (150)
教育学部	12	293 (289)
経済学部	3	89 (89)
理学部	1	5 (0)
医学部	8	85 (85)
工学部	1	84 (84)
農学部	1	52 (52)
計	34	837 (749)



・個人ガイダンス

蔵書検索の方法・検索結果の見方、文献検索方法、文献入手方法など、日ごろ図書館を利用

して困った時にはカウンター職員に遠慮なくお尋ねください。

相談件数

4 月	-----	363 件
5 月	-----	272 件
6 月	-----	132 件

・図書館案内

総合企画部広報チームとの連携により、高等学校の生徒さんに図書館内を案内しました。

案内件数

6 月 (1 回)	-----	53 名
-----------	-------	------



【医学部図書館】

医学部図書館では4月20日と27日、看護学卒業研究ガイダンスを開催し、両日で84名の参加がありました。内容は医学中央雑誌の検索、蔵書検索、文献入手方法などを、演習を交えて説明しました。

また、医学部図書館では学部学生に対しても24時間図書館を開放していますが、その利用ガイダンスを、4月から6月までで計36回開催し、263名の参加がありました。

【工学部図書館】

工学部図書館では6月1日から11日にかけて、大学院生及び4年生、教職員を対象とした文献検索講習会を開催しました。内容は、文献検索概論、所蔵検索、文献検索データベースの利用方法、文献入手方法など、期間中11回開催し、128名の参加がありました。

本学関係教員著作寄贈図書

寄贈者（寄贈順）	書名等
滝本晃一（農学部）	電磁場生命科学
栞原昭徳（教育学部）	学習規律を育てる：崩壊授業の実態と指導の見通し
栞原昭徳（教育学部）	学習規律のゴールイメージ：優れた学級の学習規律の実態に学ぶ
吉村 誠（教育学部）	へタな人生論より万葉集
松野浩嗣（理学部）	Foundations of systems biology：using cell illustrator and pathway databases
瀬瀬 厚（人文学部）	私たちの戦争責任：「昭和」初期二〇年と「平成」期二〇年の歴史的考察
杉原道子（留学生センター）	保育所・幼稚園からのおたより = Nursery school and kindergarten information
杉原道子（留学生センター）	保育所・幼稚園からのおたより = 托児所・幼儿园的な通知和消息
杉原道子（留学生センター）	小学校からのおたより = Elementary school information
杉原道子（留学生センター）	小学校からのおたより = 小学的な通知和消息
加納 隆（理学部）	目で見る鉱物と岩石：地球科学教室標本室ガイド

平成 21 年度図書館関係委員会名簿

●図書館専門委員会

阿部 憲孝（図書館長）

小河原加久治

（大学情報副機構長）

糸長 雅弘

（大学情報副機構長）

根ヶ山 徹（副館長）

（総合図書館担当）

佐々木功典（副館長

（医学部図書館担当）

山本 修一（副館長

（工学部図書館担当）

池園 宏（人文学部）

村上林 造（教育学部）

石田 成則（経済学部）

西井 淳（理学部）

小林 淳（農学部）

王 躍

（メディア基盤センター）

田畑 直彦

（埋蔵文化財資料館）

牧村 正史（情報環境部長）

板谷 茂（学術情報課長）

吉光 紀行（情報推進課長）

●企画戦略プロジェクト

（学術機関リポジトリ）

根ヶ山 徹（座長）

佐々木功典（副館長）

山本 修一（副館長）

池園 宏（人文学部）

村上林 造（教育学部）

石田 成則（経済学部）

西井 淳（理学部）

小林 淳（農学部）

板谷 茂（学術情報課長）

吉光 紀行（情報推進課長）

●総合図書館部会

根ヶ山 徹（座長）

池園 宏（人文学部）

村上林 造（教育学部）

石田 成則（経済学部）

西井 淳（理学部）

小林 淳（農学部）

板谷 茂（学術情報課長）

●医学部図書館部会

佐々木功典（副館長）

谷田 憲俊（医学部）

田口 敏彦（医学部）

山根 俊恵（医学部）

西垣 昇治（医学情報係長）

●工学部図書館部会

山本 修一（副館長）

佐伯 壮一（工学部）

石蔵 良平（工学部）

山吹 一大（工学部）

栗巢 普揮（工学部）

松元 隆博（工学部）

山本 幸子（工学部）

田中 一宏（工学部）

荻原 千聡（工学部）

守永 盛志（工学情報係長）

◆会議

【学外】

- 21. 1. 23 創立百年記念誌編集委員会
(於 山口県立山口図書館)
- 21. 1. 28 平成 20 年度国立大学図書館協会中国四国地区協
会事業委員会総会 (於 広島大学)
- 21. 1. 30 3 館協定担当者会議
(於 山口県立大学附属図書館)
- 21. 3. 6 3 館協定担当者会議、創立百年記念事業委員会、
平成 20 年度山口県図書館協会第 3 回理事会
(於 山口県立山口図書館)
- 21. 3. 26 3 館協定総括会議 (於 山口県立山口図書館)
- 21. 4. 16 第 57 回中国四国地区大学図書館協議会総会
(於 くにびきメッセ)
- 21. 4. 17 第 36 回国立大学図書館協会中国四国地区協会総
会 (於 くにびきメッセ)
- 21. 4. 24 創立百年記念誌編集委員会
(於 山口県立山口図書館)
- 21. 6. 5 平成 21 年度山口県図書館協会役員会
(於 山口県立山口図書館)
- 21. 6. 19 第 56 回国立大学図書館協会総会
(於 新潟コンベンションセンター)

【学内】

- 20. 12. 3 平成 20 年度第 3 回図書館専門委員会
- 20. 12. 19 平成 20 年度第 3 回企画戦略プロジェクト
- 20. 12. 22 平成 20 年度第 3 回山口大学所蔵学術資産継承
検討委員会
平成 20 年度第 3 回山口大学所蔵学術資産継承
検討委員会WG
(山口大学所蔵学術資産継承検討委員会と合同開催)
- 21. 2. 12 平成 20 年度第 4 回山口大学所蔵学術資産継承
検討委員会WG
- 21. 2. 18 平成 20 年度第 2 回医学部図書館部会
- 21. 3. 5 平成 20 年度第 4 回図書館専門委員会
- 21. 3. 27 平成 20 年度第 4 回山口大学所蔵学術資産継承
検討委員会
- 21. 5. 1 平成 21 年度第 1 回工学部図書館部会
- 21. 5. 13 平成 21 年度第 1 回山口大学所蔵学術資産継承
検討委員会
- 21. 5. 29 平成 21 年度第 1 回図書館専門委員会
- 21. 6. 5 平成 21 年度第 1 回総合図書館部会
- 21. 6. 24 平成 21 年度第 1 回医学部図書館部会
平成 21 年度第 2 回工学部図書館部会

◆研修

21. 5. 11～14 平成 21 年度山口大学新規採用職員研修
参加者：大塚 由希子

◆人事

21. 3. 31

退職

情報環境部情報企画課副課長	三浦 博士
情報環境部学術情報課長	鈴木 太郎
(東京学芸大学学術情報部情報管理課長)	

21. 4. 1

配置換

情報環境部学術情報課長 (情報環境部情報企画課長)	板谷 茂
情報環境部学術情報課副課長 (情報環境部学術情報課情報サービス係長)	岡田 隆
情報環境部学術情報課副課長 (情報環境部情報企画課情報企画係長)	池田 浩弥子
情報環境部学術情報課総務係長 (情報環境部情報企画課総務係長)	末武 光裕
情報環境部学術情報課資料契約係長 (情報環境部情報企画課資料契約係長)	埴口 健司
情報環境部学術情報課情報管理係長 (情報環境部情報企画課情報管理係長)	田中 俊二
情報環境部学術情報課情報サービス係長 赤野 徹 (情報環境部学術情報課工学情報係長)	
情報環境部学術情報課工学情報係長 守永 盛志 (情報環境部学術情報課利用者サービス係利用者サービス主任)	
情報環境部学術情報課総務係総務主任 久光 美恵 (情報環境部情報企画課総務係総務主任)	
情報環境部学術情報課資料契約係資料契約主任 楠 芳郎 (徳山工業高等専門学校学生課学生係主任)	
情報環境部学術情報課情報管理係情報管理主任 木越 みち (情報環境部情報企画課情報管理係情報管理主任)	
情報環境部学術情報課工学情報係工学情報主任 高田 美栄子 (情報環境部学術情報課医学情報係医学情報主任)	
教育学部山口附属学校係山口附属学校主任 蔵野 祐二 (情報環境部情報企画課資料契約係資料契約主任)	

新規採用

情報環境部学術情報課利用者サービス係 大塚 由希子

再雇用

嘱託職員 (情報環境部学術情報課医学情報係)
三浦 博士

編集後記

山口大学は新制大学として創立 60 周年を迎えました。図書館の常設展示コーナーではこれを記念して「山口大学の軌跡」と題しパネル展を開催しています。この常設展示は平成 15 年から続いているものですが、巻頭ではこれを振り返っていただきました。これからも、常設展示コーナーのさらなる充実を図っていききたいと思いますので、どうぞご覧になられたご感想などをお寄せください。

山口大学図書館報 「Library News」 No.79

2009年7月31日発行

<http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp/>

編集・発行 山口大学図書館

〒753-8511 山口市吉田1677-1

TEL. (083)-933-5183 FAX. (083)-933-5186